

## 東京ホッケー協会第1回理事会議事録

日時：平成30年4月8日（日）9:00～12:00

場所：田町貸会議室リーラヒジリザカ101号

出席者：（理事）和田明仁、一川邦彦、正田実、河原茂光、青木剛、菅野芳哉、鍋田茂子、  
右川誠治、（監事）小池文彦、箸本明雄  
10名中8名の理事の出席があり、本理事会は定足数を満たし、開催された。

議題：

### 【承認事項】

#### 1. 2017年第12回THA理事会議事録承認

問題なく承認された。

#### 2. THA正会員承認について

これまでに61チームがTHA正会員（=JHAチーム登録申請）をしている。内訳は昨年度登録55チームのうち54チーム及び新規登録7チームであり、1チームがメンバー不足により登録を取り止めている。

来る定時総会には今年度登録を見送っている1チームを含め、昨年度登録し、2017年度年会費を納付した55チームに議決権を与える事とした。前年の定時総会では新規登録チームにも議決権を与えているが、今年度の新規登録チームは今年初めてチームを結成するチームが殆どである事から、前述の考え方を採った。

#### 3. THA理事候補者選定について

THAの基盤固めと東京五輪2020に向けての対応を同時並行で進める必要から、現職理事の再任を求めるとともに、新任理事の登用を図りたいと考えている。具体的には、和田会長以下、1名を除き現職全員の再任、及び推薦のあった3名の選任を求める事とした。林理事は任期満了で理事を退任されるが、引き続き国体強化委員会委員として活動を継続していただける事になっている。

#### 4. JHA正会員候補者について

THA規約により総会でJHA正会員を選任する事が定められている。JHA定款により期末時点の登録チーム数を8で除した商を繰り上げ、正会員とする事となっている。H29年度末のTHAチーム登録数は55であることから、7名のJHA正会員を選任する。THAの状況を把握しているとの観点から理事で、JHA総会当日に出席可能な者を候補とする。

#### 5. H29年度決算について

鍋田理事より決算の概要の説明があり、監事監査を受け、会員に議案として送付する事とした。

#### 6. THA規約改定について

下記の観点からTHA規約の改定を議案とすべきとの提案があり、議論した。

##### ① THA総会におけるJHA正社員選任についての決議事項変更

これまで、JHAの正会員入会申し込み期限（JHA定款第6条に4月末までにJHAに入会登録を要する規定がある）に間に合わせるため、THA総会を4月中に開催してきたが、THAの会計規模も大きくなり実務上、事業年度末後一ヶ月以内で決算をまとめ、総会に提出することが困難になった。ついては、JHA正社員選任を総会決議事項から理事会決議事項に変更する事とし、総会開催時期を決算後3ヶ月以内に開催する事と変更したい。

JHA正会員選出について、JHAは都道府県協会に対し、必ずしも総会での承認を求るものではなく、何らかの機関決定を求めていると理解する。

② THA 正会員年会費を金額で記載するのではなく、「別途総会で定める金額」を納付するものとした。

今年度から「少年団」種別でのチーム登録があったが、JHA では男女別チームで登録する規程としている。しかし、活動実態が男女一体で行っている場合、THA 登録を1とするのか、年会費をどう取り扱うべきか議論のあるところである。

また、マスターズ登録についても「一般」登録の選手が「マスターズ」登録する事も可能とされたことから、「マスターズ」チーム登録と個人登録のいずれかを選択できる可能性が生じ、THA としての考え方を整理する必要がある。

拙速に「規約」を変更するよりも、次に議論される「THA 法人化」の話を待って、「規約」→「定款」への変更の際に、これ等を十分議論して織り込むのが良からうという結論となった。

#### 7. THA 法人化について

THA も東京 2020 を控え、行政との係わりや公的助成金の支給を受けるにあたり社会的に認められた組織とする必要がある。そのためにも組織のガバナンスを強化し、コンプライアンスを実践するために、法人化を目指したいと考えている。具体的には今夏の第6回連絡会の場を臨時総会として、法人への移行を進めたい。

#### 8. THA 委員（スタッフ）承認について

本日の理事会までに委員（スタッフ）に申し込みのあった方を審議のうえ承認した。

#### 9. 総会付議議案及び議案書送付について

これまでの議論を踏まえ、下記の項目で付議議案書をまとめる事とした。

（承認事項）

- ① H29 年度事業報告並びに H29 年度決算書
- ② THA 理事選任
- ③ 公益社団法人日本ホッケー協会正会員の選任
- ④ 法人化取進め

（報告事項）

- ④ H30 年度事業計画及び H30 年度予算案
- ⑥ その他

総会議案の送付は規約に基づき、4月14日に全正会員に送付する事とした。

### 【報告事項】

#### 1. SOMPO チャレンジカップ大会実施報告

3/16～18の3日間、駒沢第一球技場において「損保ジャパン」の協賛でHJL、JHA共催、THA 主管で「SOMPO チャレンジカップ」を実施した。

この3日間、午前中は何らかのイベントを行い、3/16は「さくらジャパン」プレス発表会を実施し、出場4チーム所属の「さくらジャパン」選手の紹介と中村真理強化副本部長から東京2020に向けての強化方針のプレゼンテーションがあった。

3/17はTHA所属社会人2チームのエキジビションゲームに続き、遠藤里菜さんの指導で「さくらジャパン」の選手にも加わっていただき、小学生を対象に「ジュニア・ホッケー教室」を開催した。

3/18は17日に引き続いて「ジュニア・ホッケー教室」と元さくらジャパンの藤尾香織さん、現さくらジャパンの小野真由美さんの指導で高校生を対象に「ホッケー・クリニック」を実施した。どちらにも多くの「さくらジャパン」の選手に加わっていただき、子供たちにとっても思い出に残る楽しい教室となった。両日とも教室終了後は「損保ジ

ヤパン」のパンダのぬいぐるみの「ジャパンダ君」もピッチに降りて、「さくらジャパン」の選手、保護者の方々も交えて和やかな撮影会を実施した。

午後からは一転、トップチーム同士のスピード豊かなエキサイティングな試合で連日大いに盛り上がった。18日には試合に先立って1949年に第4回国体ホッケー競技がここ、駒沢で開催され、そのときに選手として出場された成城OGの前田様、渡辺様の功労表彰をおこなわれた。最終戦のハーフタイムにはSONYのチアリーダー・ショーも実施され、華やかな彩となった。試合は総当りのリーグ戦で行われ、SONYチームが優勝し、「損保ジャパン」より優勝シャールを受けた。

参加者3日間の総合計1,700人程度で、当初構想には及ばなかった。わずか1週間前に詳細を決めて実行した事を考えると、何とか形にはなったかというところである。反省点は数限りなくあり、それぞれの役割・部署毎にしっかり記録に残し、次回に生かしたいと考えている。特にスポンサーである「損保ジャパン」、その広告代理店である「博報堂」と「さくらジャパン」のダイヤモンド・パートナーである「博報堂DY」、ホッケー側も企業チームの所属するHJLと「さくらジャパン」の強化を担うJHAと関係者も多く、THAも含め、体制が固まるのがあまりに遅かったこと、全体ミーティングの機会を持てなかったことが、最も大きな反省点である。

3/13～15はチャレンジカップに協力をお願いするTHA所属の大学女子チームに人工芝での練習機会を提供するため、「大学女子対抗戦」を開催した。

なお今大会の主たる収入源は「損保ジャパン」の協賛金、JSC「くじ助成」で、今回は準備不足でチケット収入は少なかった。支出は新聞広告、正面ゲートトラス・看板、駅前広告等が大きなものである。THA側で仮払いしたのは、駒沢施設利用料50万円、運営補助員謝金・食事代他50万円、計100万円である。THA側では2017年度に大会用備品としてタイマー、パソコン等を購入しており、それ等の総額は80万円に上っているが、「くじ助成」はこの様な備品購入は経費として認めていない。

「SOMPOチャレンジカップ」収支は未だまとまっていないが、昨年秋のJHA、HJL、THAの打合せでは、トータル損益を3者で分割する事にしており、最終的な損益の集計が待たれる。

## 2. 関東ホッケー協会理事会開催について

4月14日に関東ホッケー協会理事会が栃木県で開催され、THAより菅野理事が出席する予定である。

## 3. 4月度「日本リーグ」駒沢大会開催について

4/14、15は「日本リーグ」女子の大学4チームによる試合である。

4/15には東京都オリパラ準備局大会施設部メンバーの視察が予定されている。

## 4. 東京五輪2020の準備状況について

### (1) 大井ホッケー場の管理運営体制について

3/29に都オリパラ準備局、五輪組織委員会、JHA、THAの打合せがあった。

東京都としては施設運営計画に20万人の来場、ホッケー競技23大会、合宿15回の実施を明記する。2019年夏に完成後は、大井ホッケー場は最適な状態で東京2020を迎えられるよう、準備を行う。大井ホッケー場の管理運営体制は4月中旬に公表されるが、現在の指定管理業者が継続する事になる。

### (2) JHA東京五輪2020準備委員会報告

名称を「東京2020準備委員会（←実行委員会）」とした。

組織、業務内容を明確化したが、具体的な活動はおこなっていない。

東京2020競技ボランティアの募集はこれからである。

- (3) THA としての五輪準備への取組みについて  
東京 2020 まで数少ない大会を有効に生かし、東京 2020 に備える準備としたい。  
2018 年についていえば、「インカレ」「日本リーグ決勝」を JHA 及び競技団体と協力し、有効に生かしたい。
5. 国体強化・ジュニア育成事業について  
都体協交付金の額が決定し、4 月中の申請書提出が求められている。  
4 月 25 日に競技力向上委員会が開催される。
6. 「すこやかキッズ」ホッケー教室開講について  
「すこやかキッズ」事務局と開講に向けての協議を行っている。
7. 都高体連関係
- (1) 全国選抜大会の開催について  
高体連では、大井ホッケー場竣工後、全国高校選抜大会を恒常的に五輪施設で開催したいとの意向がある。  
4 月 20 日、JHA、高体連と都高体連、THA の話し合いを行う予定である。
- (2) インターハイ関東ブロック予選について  
都高体連総会が 4 月 21 日に開催され、総会終了後、THA を交え大会開催について打合せを行う。

次回開催予定：2018 年 4 月 28 日（土）を予定する。

上記決議を確認するため、本議事録が作成され、会長及び副会長が署名捺印した。

平成 30 年 4 月 8 日

東京ホッケー協会  
会長  
和田 明仁

和田明仁 

副会長  
一川 邦彦

一川邦彦 